

2024年度（令和6年度）山のトイレを考える会 活動報告

1. フォーラム案内、ニュースレターを送付（2024年1月26日）

第25回山のトイレフォーラム案内とNO.25ニュースレターを会員及び関連団体へ約300通送付しました。

2. 令和6年度定期総会の開催（2024年3月9日）

第25回フォーラム開催日に定期総会を開催しました。令和5年度事業報告、会計報告、令和6年度事業計画案、予算案、運営委員案について承認されました。

3. 第25回山のトイレフォーラムを開催（2024年3月9日）

第25回山のトイレフォーラムを札幌エルプラザ・環境研修室1・2で53名の参加者を迎えて開催しました。テーマは「どうする！どうなる！日高山脈国立公園化～トイレ・避難小屋・野営地・登山道～」です。

第Ⅰ部：報告 山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄

テーマ「日高山脈の山小屋とトイレの調査結果」

第Ⅱ部：パネルディスカッション（テーマはフォーラムのテーマと同じ）

パネラー 環境省帯広自然保護官事務所 自然保護官 山北育実氏

十勝山岳連盟 会長 齊藤邦明氏

日高山脈ファンクラブ 事務局長 高橋 健氏

日本山岳会北海道支部 前支部長 藤木俊三氏

コーディネーター：山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄

フォーラムの内容は当会ホームページに、プレゼン資料、フォーラムの記録、フォーラム資料集、など全て掲載しています。

4. 美瑛富士トイレ管理連絡会による点検パトロールの実施（2024年6月23日～9月29日）

「美瑛富士トイレ管理連絡会」による携帯トイレブースの点検パトロールをスタートしてから10年目。今年は8回実施することができました。10年以前と比べ、汚物とティッシュの散乱は少なく、小屋周辺はきれいに使われています。

縦横無尽にあったトイレ道の植生が回復し、判別できないほど薄くなりました。

ブースの利用数は365でした。

[点検パトロール実施状況]

- ・6月23日：美瑛町、美瑛山岳会、環境省、山のトイレを考える会：13名
(冬囲い外し含む)
- ・7月 7日：大雪山国立公園パークボランティア連絡会：11名
- ・7月21日：道央地区勤労者山岳連盟：15名
- ・7月28日：札幌山岳連盟：5名
- ・8月 4日：北海道山岳連盟（豪雨のため中止）：10名
- ・8月18日：日本山岳会北海道支部：2名
- ・9月 8日：道北地区勤労者山岳連盟：8名
- ・9月24日：北海道山岳ガイド協会：3名

- ・9月29日：美瑛町、美瑛山岳会、環境省、山のトイレを考える会：13名
(冬囲い含む) (延べ参加者数：80名)

5. 山のトイレマップ約10,000部配布(2024年6月～10月)

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」に少しでも寄与できるよう、啓発ツールの山のトイレマップを作成配布しています。今回で6年目です。

配備先の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理署、ロープウェイ会社等の協力を得て、大雪山国立公園の16カ所で約8,500部、知床・利尻山・羊蹄山の6カ所で約800部、その他48宛先に約550部など全部で約10,000部を配布しました。

6. 沼ノ原大沼野営指定地のトイレ実態調査(2024年7月27日～28日)

運営委員2人と一般会員1人の3人で現地1泊の調査を実施しました。

大沼は6月上旬満水。その後、徐々に水が少なくなりテント地(砂地)が現れ、7月頃からテントを張ることができます。しかし、豪雨になると再び満水となる野営指定地です。

まずティッシュや汚物が散乱していないか確認。沼の淵や砂地を捜しましたが、全くありませんでした。ウイスキーの瓶1本回収しただけでした。ティッシュや汚物は満水時に沼の中に溶け込んでしまう可能性があるかと推測されます。

次に身を隠す所があるか。よく探せばありますが、沼の淵は濃い笹藪や灌木で覆われていますのでなかなか探すのは大変です。ただ、沼の砂地は周辺に広がっているのでテントから遠く離れて対処しているのではないかと推測できます。

もし、携帯トイレブースを設置する場合、テント型ブースを砂地に設置したとしても満水になれば水に浸かり、強風での倒壊も危惧されますので強力なアンカーが必要です。試行的に設置する場合は水没しない連続期間の見極めが求められます。大沼南東側入口はテント泊者と登山道(木道)通過者の双方が使用するのに都合がよい場所ですが、この付近は湿地帯です。

テント数は7張。夜遅く帰ってきたテントが2張。アンケートは5張の人から回収し10枚。夜中から雨が降り、びしょ濡れのテントを撤収。雨の中、下山しました。

9月にも計画しましたが、9月8日に豪雨による満水との情報があり、断念しました。アンケート調査結果も含め、当会としての見解を今年度中に公表する予定です。

7. 空沼岳～札幌岳縦走路登山道整備に参加(2024年8月4日～5日)

北海道山岳団体交流会が毎年1回11月に開催されています。2019年の交流会で空沼岳～札幌岳縦走路登山道整備をしよう!との提案があり、当会がその実施要領を作成しました。しかし、その後コロナとなり、登山道整備は見送られていました。

コロナが5類となった2024年に道央地区勤労者山岳連盟が事務局となり、登山道整備をするための「札幌登山道整備連絡会」を設立、7団体が分担して整備を実施、9月18日に貫通(開通)しました。

当会も日本山岳会北海道支部のチームに加わり4人が参加して整備に協力しました。

8. 大雪山十勝岳愛護少年団交歓会に参加(2024年8月6日)

第53回目の大雪山十勝岳愛護少年団交歓会が8月6日に大雪山旭岳5合目で開催され、当会の仲俣善雄が講師として参加しました。主催は東川町(旭岳ビジターセンター)です。

生徒は東川中10人、美瑛町の美沢小8人のほか先生や保護者。姿見駅のデッキで携帯トイレの使い方を説明、5合目ではA3ラミネートを使って、携帯トイレ普及の背景と山岳トイレの

現状について説明しました。その後、生徒が登山者に携帯トイレを配布し、利用を呼びかけました。外国人に英語で話す生徒もいて楽しく有意義なイベントでした。

9. 北戸蔦別岳登山道（チロロ川ルート）裸地化の現状確認（2024年8月7日）

運営委員でもあり日高山脈ファンクラブ事務局長の高橋健氏と自然考房 Nature Designing 代表の鈴木宏紀氏が日帰りで調査を実施しました。登山道にテントが張られている4箇所裸地について、傾斜地を平坦化した地面の改変や新たな踏みつけ道及び高山植物の踏み付けが見られました。

ティッシュペーパーや汚物の散乱は無かったとのこと。今後もモニターを続けたいと思います。

10. 日本自然保護大賞・選考委員特別賞を受賞（2024年10月17日）

（公財）日本自然保護協会主催の日本自然保護大賞（今年で10回目）に応募し、当会は選考委員特別賞を受賞しました。日本の自然保護と生物多様性の保全に大きく寄与した団体に授与されます。

大賞は3団体、特別賞の沼田眞賞1団体、同じく特別賞の選考委員特別賞が2団体、入選が6団体です。

2000年ころから携帯トイレの普及啓発と行政や山岳団体、民間事業者等と協働で登山者が携帯トイレを使用し易い環境整備に取り組んできたことが評価されました。

授賞式は2025年1月19日（日）午後に札幌エルプラザで行われました。

11. 大雪山国立公園90周年記念フォーラムで写真展示（2024年12月15日）

大雪山国立公園指定90周年記念フォーラム（会場は旭川市市民交流センターC o C o D e）に運営委員2人で参加。「大雪山国立公園の山のトイレ問題」とのタイトルで写真の展示をしました。フォーラムの参加者は約150人でした。

10年後の100周年に向け、大雪山国立公園ビジョンを達成にするための講演やパネルディスカッションで会場は熱気で包まれ、大雪山財団の設立など難しい課題もありましたが希望が持てる記念フォーラムだったと思います。

12. 各種会議と山岳団体交流会に参加

2月16日の第4回大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（東川町で開催）に小枝代表と仲俣事務局長が参加しました。第5回は書面開催でした。

また、7月25日の第7回大雪山国立公園登山道維持管理部会の会議にオンラインで参加しました。さらに11月27日に札幌で開催された第15回北海道山岳団体交流会に小枝代表と仲俣事務局長が参加しました。

（以 上）